

第5次結城市総合計画実施計画策定及び行政評価シート

担当部署	部局名	保健福祉部	
	課名	長寿福祉課	
	係名	長寿支援係	
	記入者		電話(内線) 151

1. 事業の概要		(1) 事業種別 [新規又は継続]	継続	(2) 事務事業 の名称	市内巡回バス運行事業	(3) 事業の 優先度	A
(4) 総合計画での位置づけ		① 事業の区分		⑥ 事業主体		市	
② 施策コード		23203 (総合計画掲載ページ 79 ページ)		(7) 予算・ 財源等 の種別		事業の性質 一般事業費(ソフト事業)	
基本目標(政策)		2安全で住みやすさを実感できるまちづくり(都市・環境)		会計区分		一般会計	
基本施策		2-3便利で快適に移動できるまちづくり(道路・公共交通)		財源区分		市単独	
施策		②公共交通ネットワークの強化		予算科目		款 3 項 1 目 4	
施策内容		3交通弱者等の交通手段の確保		予算書上の 事業名称		市内巡回バス運行事業費 (予算書 76 ページに掲載)	
(5) 事業期間		開始 平成 16 年 月から		(8) 事務分類		自治事務	
		終了 年 月まで (カ年)		根拠法令			

2. 事業の目的及び内容	
(1) 対象 (だれに対して・何に対して行うのか)	(3) めざす姿 (意図・どのような状態になるのか)
全市民	交通弱者の日常的な交通手段の確保と高齢者の外出機会の向上
(2) 手段 (事業内容・どのようなことを行うのか)	(4) 事業開始のきっかけや他市の状況など (※ 1-(8)事務分類が法定受託の場合は記入の必要なし)
市内8ルートにて、休日等を除く平日において、JR結城駅と市内の病院や公共施設等を結ぶ市内巡回バスを運行する。 平成28年度 車両1台買換え 平成29年度 〃 平成30年度 ダイヤ改正・停留所看板作成・時刻表印刷	
(5) 事業をとりまく環境の変化 (社会環境, 市民ニーズ等) や市民・議会の要望, 意見等とそれに対する対応	
高齢化の進展に伴い、運転免許証を返上する高齢者の増加に加え、妊産婦などの交通弱者に対する交通手段の確保が必要となっている。	

3. 事業コスト				
行政評価 実施計画	実績内容の評価	検討・改善	検討・改善内容を反映	
● 予算内訳	実績額 (千円)	当初予算額 (千円)	計画額・見込額 (千円)	
事業内容	27 年度	28 年度	29 年度 30 年度 31 年度	
事業費 (1) 事務事業費	需用費	2,845	3,633	
	役務費	158	216	
	委託料	8,937	9,516	
	使用料及び賃借料	23	126	
	備品購入費	3,834	3,889	
	負担金補助及び交付金	16	16	
	公課費	31	31	
	合計	15,844	17,427	
財源	国庫支出金 (千円)			
	県支出金 (千円)			
	地方債 (千円)			
	その他特定財源 (千円)			
	一般財源 (千円)	15,844	17,427	
合計 (千円)	15,844	17,427		
補助・起債制度名		地域福祉基金		

4. 指標の検証（活動指標・成果指標）				単位	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
(1) 活動指標（実施した事業の内容）									
指標名	市内巡回バス車両台数	目標値	台		3	3	3	3	3
		実績(見込)値		3					
		目標値							
		実績(見込)値							
(2) 成果指標（事業実施によるめざす姿の達成度）									
指標名	年間延べ利用者数	目標値	人		28,000	32,000	36,000	40,000	
		実績(見込)値		20,397					
		達成率		51.0 %	0.0 %				
		目標値							
		実績(見込)値							
		達成率	%	%					
5. 事業評価									
(1) 平成27年度の行政評価結果をうけて、平成27年度に取り組んだ改革改善点があれば記載してください。 定員超過でタクシーを代替交通として使用することがあったので、利便性向上のため車両1台とダイヤの改正を行った。									
(2) 項目別評価									
評価項目・客観的評価				理由					
必要性	事業の必要性	A	必要性は高い	高齢者の外出機会の確保と交通手段の確保は日常生活上不可欠。					
妥当性	実施主体の妥当性	C	見直す必要がある	高齢者対策として実施しているが、この事業を公共交通と考えた場合、市全体として実施すべきと考える。					
	手段の妥当性	C	見直す必要がある	公共交通として捉えた場合、シルバー人材センターより派遣された運転手が、市公用車を使用して運行している体制は見直す必要があると考える。					
効率性	コスト効率 人員効率	B	どちらとも言えない	現在の形態ではコスト等は安価ですんでいるとも考えられるが、安全性を重要視すると効率がよいとは言えない。					
公平性	受益者の偏り	B	どちらとも言えない	全市民が無料で乗車できること、平成27年度に増車により便数も増えたことで、さらに利用者の偏りは以前より少なくなったと思われる。					
有効性	成果の向上	A	上がっている	市内巡回バスを1台増車し、ダイヤ改正を行ったことにより、利便性が向上した。					
進捗度	事業の進捗	B	どちらとも言えない	コミュニティバスとして利便性も高まり定着してきているが、今後も利用率を向上していく必要がある。					
(3) 総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください。 高齢化の進展に伴う、交通弱者対策として、高齢者の外出の機会を増やすなど重要な役割を担っており、現在、交通手段としても認知され、定着していると思われる。 また、交通機関として定着したことにより、高齢者以外のサラリーマン、学生、市外の方など多様な人が利用していると思われ、高齢者にの交通手段にとどまらず、より便利な公共交通としての役割も求められている。									
(4) 対応策・提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか？ 当該事業を現在の形(シルバー人材センターへの運転委託)で継続していくことは、利便性、安全性についても疑問があり、効率的な運営をしていくためにも、市内巡回バス運行事業を公共交通としての在り方を検討していかなければならないと考える。									
6. 事業の方向性判断									
評価主体		28年度以降の事業の方向性			評価理由・根拠				
(1) 記入者評価 記入者が評価を行う		改善・改革しながら継続(成果向上・コスト維持又はコスト削減、成果維持・コスト維持又はコスト削減)			注) 記入者は「5. 事業評価」を記載するため、この欄は未記入で結構です。				
(2) 一次評価 担当課長が評価を行う		改善・改革しながら継続(成果向上・コスト維持又はコスト削減、成果維持・コスト維持又はコスト削減)			民間交通機関が撤退している現在、地域住民の交通手段を確保することは必要不可欠であり、重要な事業である。				
(3) 最終評価 企画調整会議において評価を行う					上記評価のとおり。				